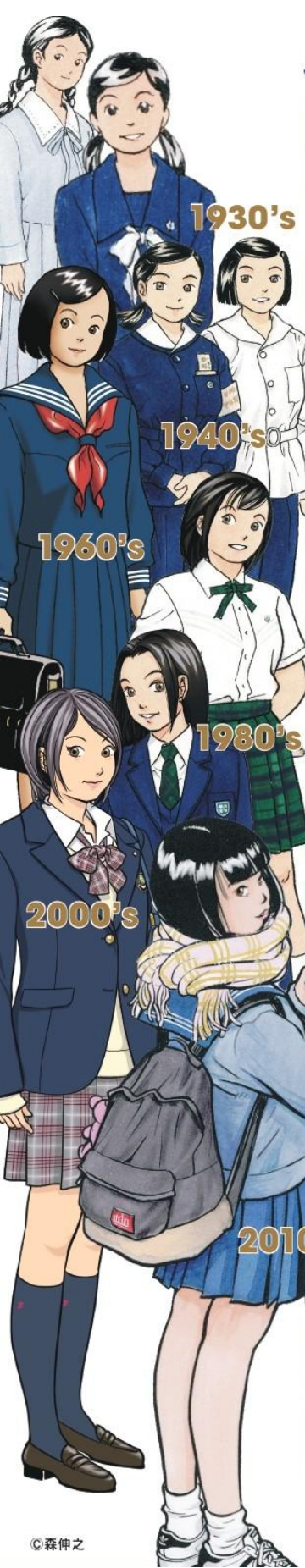


# 制服の歴史



日本の洋装制服  
山陽学園のフリース式制服

昭和100年！  
着こなしの変遷と、  
これからの学生服

2025.6.7<sup>±</sup>-9.14

参加アーティスト げみ 江津匡士 近藤智美  
T.C.R.横浜銀蠅R.S. 7限目のフルール なめ猫  
マツオヒロミ めばち 森伸之 wataboku

弥生美術館・制服展  
第三弾では学生服の着こなし  
方に焦点をあてます。

学生服の心理は複雑です。自己主張をしたがる一方で、周囲と同じでありたいとの気持ちも強く、仲間意識にも敏感です。こうしたデリケートな胸の内は制服の着こなし方に現れます。スカート丈やスボン幅やタイルの結び方など、わずかな違いではありますが、そこにはたくさんの情報が込められているのです。

1970〜80年代にはウッパバリ&スケパン、1990年代にはヘカングロ&ルースソックスなど、極端な着こなしも登場しましたが、根底には青春を生きる若者たちの繊細な心理がありました。

また、学生服は社会の変化をうつす鏡でもありません。現代は多様性を認める世の中を志向していますが、それに応じて制服もアップデートし、現在は令和のモデルチェンジブームの真最中です。「昭和100年」の今、学生服について考えてみませんか。

実物資料も多数展示、気鋭のアーティストによる絵画作品もご紹介します。

監修 森伸之  
イラストレーター 制服研究家

【お知らせ】河出書房新社より「ニッポン制服クロニクル」刊行予定。  
会期中、トークイベントやサイン会などを開催します。詳細は美術館公式HPとSNSにてお知らせします。  
【特別協力】官小学生服株式会社



# 昭和100年！

## 着こなしの変遷と、 これからの学生服

イラストと実物資料でたどる  
制服の100年の歩みと最新事情

詰襟、セーラー服、ワンピース、ジャンパースカート、  
ブレザー×スカート。

日本の学生服の種類は、この100年で大きな変化  
はありません。変化があったのは〈着こなし方〉です。

学生服の着こなし方にはさまざまな意味が込めら  
れています。

スカート丈やズボン幅やリボンの結び方など、  
ほんの少しの違いで、その人の〈個性〉や〈所属する  
グループ〉を示してきました。学生服は〈ビジュア  
ル・コミュニケーション〉のツールでもあるのです。

めばち



図版① ©mebachi



図版②



図版③

なめ猫



図版④ ©NAMENeko JAPAN

思春期の若者が、同じ服を  
着て長い時間を過ごすので  
すから、さまざまなルールが  
生まれました。  
発生しては陳腐化し、逸脱と  
様式化を繰り返してゆくうち  
に、とんでもない域に到達し  
てしまったことも……。

今からみれば珍妙なスタイル  
である右の着こなしが学生  
の間でブームになった背景  
には、自己主張だけでなく、  
〈人と同じでありたい〉〈悪目  
立ちしたくない〉という若者た  
ちの繊細な意識も根底には  
ありました。

また、70～80年代には「横  
浜銀蠅」や「なめ猫」が大  
ブームになり、90年代には  
「アムラー」が大発生するな  
ど、当時の世相や流行が、  
制服の着こなし方にも大きく  
影響していました。

## 〈ツッパリ&スケバン〉 〈コギャル&ギャル男〉に まじめに取り組む、初めての展覧会です！

1970年代～80年代



図版⑤

©森伸之

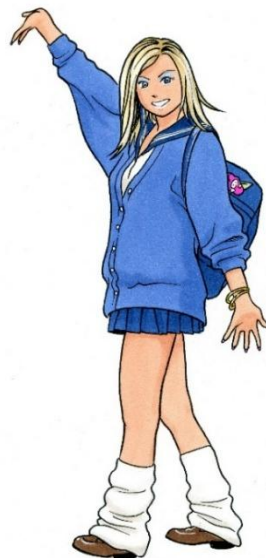
新アイテム「チェックの  
スカート&ブレザー制服」の登場で  
変形学生服が消滅

1980年代半ば

図版⑥



1990年代～2000年初頭



図版⑦

ブレザー制服が  
定着したとたん、  
学生たちは着崩  
しを始めました

2000年代

私物アイテムを取  
り入れた、無理し  
ないゆる～いスタ  
イルに。

図版⑨



森伸之



図版⑧

# ◆ 2025年 学生服 最新事情をご紹介します ◆



定着した「女子スラックス」

図版⑩ ©森伸之

コロナ禍を経て、学生たちの通学時の身なりへの意識も変わったようです。着心地を優先させたスポーツミックススタイルから、端正なスタイルに戻り、学生らしい装いを楽しんでいます。ローファー率もアップしました。(ハルタ調べ)

現在は〈令和のモデルチェンジ・ブーム〉の真っ最中！  
都市部の公立中学校の約半数が【ジェンダーレス制服】を採用。



見た目の性差が少ない  
ジェンダーレス制服

図版⑪ ©菅公学生服株式会社

## 進化した〈ダイバーシティ制服〉

性自認、宗教、障がいの有無等、多様なあり方に寄り添った学生服が考案されています。学生服のトップメーカーである菅公学生服株式会社の全面的なご協力のもと、最新の制服事情をご紹介します。

こんな制服も！

「ポロシャツ制服」  
「ハーフパンツ制服」  
「パーカー制服」



酷暑対策！

図版⑫ ©森伸之

各メーカー(菅公学生服/瀧本/日本被服(児島学生服資料館)/ハルタ)様のご協力により、実物制服を多数展示いたします！

## 2000年代渋谷の ガングロギャルについても考察します



図⑬ ©Satomi Kondo



図版⑭ ©Satomi Kondo

渋谷のヤマンバ出身で、ヤマンバギャル文化を美術史として資料的に残すことをライフワークにする画家・近藤智美(こんどう・さとみ)。本研究で、東京都主催「TAAP」の支援アーティストに採択されました。



## ◆気鋭のイラストレーターの作品展示◆

マツオヒロミ



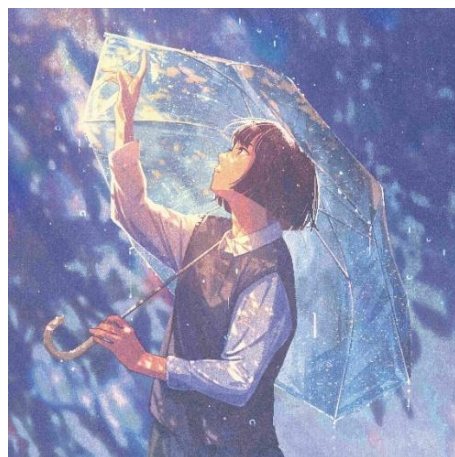
図版15 ©Hiromi Matsuo

Wataboku



図版16 ©wataboku

げみ



図版17 ©げみ

【参加アーティスト】 げみ 江津匡士 近藤智美 T.C.R.横浜銀蠅R.S. 7限目のフルール なめ猫  
マツオヒロミ めばち 森伸之 wataboku

展覧会名称 ニッポン制服クロニクル 昭和100年、着こなしの変遷と、これからの学生服

会期 2025年6月7日(土)～9月14日(日)

休館日 月曜日 \*ただし7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)開館、  
7月22日(火)、8月12日(火)休館

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

会場 弥生美術館 1階～2階

同時開催 弥生美術館3階会場 高島華宵展

竹久夢二美術館

夢二でたどるアール・ヌーヴォーとその周辺

—明治～大正の出版美術にみる装飾趣味—

入館料 一般 1200円 大高生 1000円 中小生 500円 \*竹久夢二美術館と併せての料金

住所 弥生美術館 〒113-0032 文京区弥生2-4-3

TEL: 03(3812)0012 FAX: 03(3812)0699

交通 東京メトロ千代田線(根津駅)1番出口/南北線(東大前駅)

1番出口よりいづれも徒歩7分

JR上野駅 公園口より 徒歩20分

HPアドレス <https://www.yayoi-yumeji.museum.jp>

特別協力 菅公学生服株式会社

監修 森伸之(イラストレーター・制服研究者)



## ◆ Information ◆

- ★展覧会に合わせて、新刊書籍「ニッポン制服クロニクル」を(河出書房新社/2025年6月)刊行します!
- ★サイン会やイベントを開催します! 詳細は美術館公式HP、公式SNSにて随時お知らせします。

◆内覧会開催◆ 6月6日(金) 15:00-17:00 個別取材もお受けします。

この展覧会についてのお問い合わせは 弥生美術館 内田静枝 までお願いします。

TEL: 03-3812-0012 FAX: 03-3812-0699 e-mail [yayoi-m@muse.ocn.ne.jp](mailto:yayoi-m@muse.ocn.ne.jp)

# 「ニッポン制服クロニクル展」 画像使用申込書

掲載誌（紙） / 放送予定番組名	
発売 / 放送予定日	
会社名・所属 / ご担当者名	
ご住所 〒	
E-mail	
TEL	FAX
通信欄	

プレスリリース掲載の図版つき、メールで画像データをお送りします。

■ **図版番号** ご希望の図版を ○印で囲んでください。（図版番号はプレスリリース参照）

- |           |           |           |           |           |           |           |          |          |            |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|------------|
| <u>1</u>  | <u>2</u>  | <u>3</u>  | <u>4</u>  | <u>5</u>  | <u>6</u>  | <u>7</u>  | <u>8</u> | <u>9</u> | <u>10</u>  |
| <u>11</u> | <u>12</u> | <u>13</u> | <u>14</u> | <u>15</u> | <u>16</u> | <u>17</u> |          |          | <u>チラシ</u> |

\* デジタルデータの二次利用は禁止です。ご利用後は破棄していただきたくお願い申し上げます。

本紙に必要な事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 / e-mail yayoi-m@muse.ocn.ne.jp 迄 お送りください。

弥生美術館写真(外観/展示室)等、他に必要とする資料がございましたらご連絡ください。

著作権は各著作権者が有しますが、本紙掲載画像を展覧会広報で使用する場合は、許可を得ています。

図版使用の際は、別紙リストに明記したタイトル・作者名・クレジットを必ず入れてください。

■ **読者プレゼント招待券(5組10名)** 希望する 希望しない

■ **内覧会(4月6日 午後3時～)** 参加する 参加しない

\*ご参加の方には折り返しご連絡いたします

■ **掲載誌(紙)ご送付のお願い**

本展に関する記事を掲載していただいた際は掲載誌(紙)をお送り下さいますようお願い申し上げます。

【送り先】〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3 弥生美術館 担当 内田